

沙門はくいのCL閑話 45

百丈野狐 —行動を味まさない—

遠藤博因 hakuin@river.ocn.ne.jp

今回もまた禅の逸話から始めたいと思います。

百丈和尚が説法する時、いつも一人の老人が雲水たちと一緒に座って説法を聴き、彼らが退出する時はいつも一緒に退出していた。ある日老人は雲水たちが退出した後も一人が残っていた。

百丈和尚は「わしの目の前にたっているのは誰か」と尋ねた。老人は「はい、私は人間ではありません。大昔、迦葉仏の時、この寺の住職でした。ある時、一人の僧に“大悟した人は因果に落ちますか、落ちませんか”と問われ、“因果に落ちない”と答えてしまいました。この答えのため私は五百回も野狐に生まれ変わらなければいけませんでした。願わくばどうぞ私のために一転語を授け、野狐の身から解放してください」と和尚に懇願し、「大悟した人は因果に落ちますか、落ちませんか」と問うた。

百丈和尚は「因果を味まさない」と言い放ち、これを聞いた老人は直ちに領悟した。



この逸話はこの後もうひと展開あるのですが、ただでさえ難解な内容がさらに込み合ってくるので、今回は前段部分の紹介に留めておきます。

野狐が老人に扮して登場し因果について百丈和尚に問い、その呪縛のようなものを解いてもらう話ですが、順を追って説明してみたいと思います。まずこの老人なのですが、百丈和尚が説法するときは必ず雲水と一緒に聴いていたということです。そしてある日ただ一人残っているところを、百丈和尚に誰かと尋ねられ、自分の正体について語り始めます。迦葉仏というのは、お釈迦様が誕生する以前の仏様の一人です。お釈迦様が仏法を説かれ広められる以前から仏法は綿々と存在しているという考え方が仏教にはあります。ですから大昔を誇張する表現として迦葉仏の時代という言葉を使ったと思われる。そしてその時代に住職をしていて、一人の僧から“大悟した人は因果に落ちますか、落ちませんか”と問われたということです。

因果というのは、一般的には因果応報という言葉からもわかるように、過去の行為が原因として、現在または未来の結果として現れるというものであります。因果律ともいい、元々はインド思想で善行を積みれば良い結果に報われ、悪業を働けばその報いを受けるというものであります。そのように人はこの因果律の円環の中で生まれ変わるといえるものであります。そこで本当に悟った人は、人間の宿業である因果律に落ちてしまうのか否かと問われ、“因果に落ちない”と答えてしまいます。悟ってしまえば因果律のような人間的な宿業などから解放されるような気がします。悟りと同義で使われる解脱という言葉からもわかるように、何かその因果の束縛から抜け出ることのように思われます。住職は、もっともらしく因果に落ちないと答えてしまったのでしょうか。しかしながら、禅では生半可な理解や答えでは、本物とはみなされません。その結果この住職は野狐にさせられ五百回も生まれ変わらねばならないことになってしまいました。大きなペナルティーです。

野狐にさせられた住職は何とかこの呪縛から逃れたい一心で百丈和尚に一転語を与えけるよう懇願します。一転語というのは迷いから目を覚まさせてくれる言葉のことを言います。わかりやすい例で言えば喝（カーッ）というやつです。ここでは百丈和尚は、「因果を味まさない」と言い放ちました。この「味ます」という語ですが、あまりなじみのない漢字ですが、語義は道理に暗いとか愚かという意味です。大悟した人間は因果律を疎かにしないまたは曖昧にしないという意味です。悟ったとって、人間的宿業から解放されたと安心するのではなく、もう一度人間的宿業としっかり向きあ

ってこそ大悟した人間だということです。ともあれ野狐にさせられていた住職は百丈和尚の「因果を味まさない」との一転語に目から鱗が落ちる思いで頷きえたのではないのでしょうか。

因果律は、善行は善果を生み、悪行が悪果をもたらすというものですが、しかし現実には、こんな良い人が不幸にとか、こんな悪人がなぜということは世間にざらにあります。これは、いわば仏教的教義、道徳的な規範として捉えられます。ではこの因果律についてCL的にはどのように捉えられるのでしょうか。CLでは、ものごとの善し悪しの判断は個人に委ねられていますし、ある行動から必ず期待した結果をもたらすことはないという考え方です。仮に他人から、それは善い行いだからそのようにしなさいと言われたとしても、その行動の責任は自分にあるという考え方です。また善い行動をとったからといって必ず善い結果がついてまわるわけではありません。しかしながら行動をとったことは紛れもない事実として残り、その経験した事実が自らの人生の糧となるという考え方です。そこには、仏教的とか道徳的な教義とか規範というものは少しもありません。現実を直視するだけなのです。くしくも百丈和尚は「因果を味まさない」の一転語を授けてくださいました。CLの生徒にはどんな言葉を授けてくれるのでしょうか。

今回も誌面にて皆さんとお会いできるご縁に感謝して

合掌
(富山県南砺市井波CLインストラクター)

 [目次へ戻る](#)